

群 教 セ	G15 - 01
	令 6 . 286 集
	小-キャリア

令和 6 年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 飯島 美貴

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）は、群馬県内をエリアとするヤクルトブランド商品の販売会社である。全国に101社あるヤクルト販売会社の中で、最優秀販売会社賞を6期連続で受賞している。「共助社会の担い手になる」というビジョンを掲げ、乳製品乳酸菌飲料・清涼飲料・食品・化粧品の販売を行っている。ヤクルトスタッフによる宅配サービスと、店舗や自動販売機、給食での直販サービスを通し、地域の人々に健康と美をお届けしている。また、地域の高齢者サロンや企業、学校に向けた健康教室も実施することで、健康社会の実現を目指している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月1日～5月31日】（研修場所：本店）

新入社員と共に数多くの研修を受けた。役員や各部門長からの講話を聴き、経営理念や使命、価値観などを学んだ。新人ヤクルトスタッフ研修にも参加し、商品や健康に関する知識を身に付けた。総務部での研修では、名刺交換や電話対応などのビジネスマナーを学んだ。実際に、コールセンター業務を体験し、顔の見えない相手に対するきめ細かな対応の大切さを学んだ。

(2) 人材開発部研修【通年】（研修場所：本店）

群馬ヤクルト独自の資格制度であるブロンズ研修を社員と共に受講した。マーケティング、企画書、プレゼンテーション、自己理解、傾聴力向上、社会人基礎力、コーチングなど、これまでの教員研修では学んだことのない内容から、新たな知見を得ることができた。

(3) 直販サービス部研修【6月10日～9月9日】（研修場所：店舗、病院、自動販売機）

県内のスーパーやコンビニ、病院などへの納品に同行した。温度管理、日付管理、衛生管理を徹底することで、安心安全な商品をお届けしている様子を知ることができた。また、自動販売機業務に同行する中で、商品をトラックから回収し、自動販売機に投入する業務も体験した。

(4) 宅配サービス部研修【10月1日～1月10日】（研修場所：吉岡・富士見サービスセンター）

一軒一軒ご自宅を訪問し、新規顧客づくりや、ヤクルトスタッフの採用活動を行った。その中で、新規顧客となったご自宅へ商品のお届けをすることもできた。一人でのお届けは責任ある業務であったが、自身が成長できる機会となった。何よりも、自ら経験することで、顧客とのコミュニケーションを大切にしている群馬ヤクルトの真髓を実感した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育について

研究協力校におけるキャリア教育の現状は、校内のキャリア教育全体計画は設定されているが、キャリア教育を意識しながら日々の教育活動が行われていない傾向にある。課題としては、キャリア教育について教職員同士で学ぶ機会がないことが挙げられる。そこで、教職員全員でキャリア教育全体計画を共有することで、キャリア教育指導目標の大切さを実感し、教育活動に生かしていく必要があると考えた。キャリア教育実践については、子供への授業実践の前に、まずは教職員みんなでキャリア教育の目線合わせをする校内研修を行うことが、子供たちの基礎的・汎用的能力を伸ばす上で有効であると考え、本実践を計画した。

(2) 実践の概要（高崎市立金古小学校）

校内研修

研修内容（テーマ） 「キャリア教育の視点から学校力を高めるワークショップ」
～「群馬ヤクルト」の価値普及を手掛かりに学校の価値を考える～

対 象 教職員 20 名

群馬ヤクルトが大切にしている価値観の中で、「価値普及」に焦点を当て、「子供たちは、何のために金古小に来ているのか？」をテーマに「子供たちは、何を金古小で学んでいるのか？」「子供たちにとって、金古小の価値とは？」について、意見交流を行った。意図的に教職員同士の対話場面を作ることでビジョンの共有をし、それをキャリア教育の効果的な実践につなげることで、児童の基礎的・汎用的能力を伸ばすことを目指す研修とした。これらを積み重ねていくことにより、学校力向上につながると考えた。校内のキャリア教育全体計画にあるキャリア教育の指導計画を基に、大まかな指導計画であるラフプランを低・中・高学年ごとに作成した。

Ⅱ 研修成果

1 企業と学校との共通点について

研修前は、学校と企業は全く違うものだと思っていた。しかし、学校では目の前の子供たちを、企業では目の前のお客さまを大切にしていることから、企業と学校との共通点に気付くことができた。群馬ヤクルトの今年度のスローガンは、「基本を大切に！～すべてはお客さまのため～」を掲げている。また、高崎市の学校教育スローガンも「すべては子どもたちのために」を掲げていることから、企業と学校に共通することを感じた。また、ブロンズ研修を受講する中で、社会人になっても学び続けることの大切さを改めて感じ、教職員の「絶えず研究と修養に励む」ことと重なることに気付いた。

2 ビジョン共有と対話の大切さについて

群馬ヤクルトでは、ビジョン経営を行っており、従事者は会社が掲げるビジョンに向けて日々業務を行っていることを間近で感じた。教職員は、学校のビジョンである学校教育目標をどれだけ意識しながら日々の教育活動に向かっているのかを考える機会となった。実際に、校内研修の振り返りアンケートの中の「教職員全員がビジョン共有をしていくことは大切だと思いますか？」「教職員同士で対話の時間をもつことは大切だと思いますか？」という質問に対して、全員の先生が「とてもそう思う」と回答があったことから、本校の教職員がビジョン共有と対話の大切さを感じたことが分かる。そして、学校現場において、今まで以上に教職員同士の対話の時間をもつことが必要であることも分かった。今後は、教職員同士はもちろん、教師と児童、児童と児童が対話を大切にしていくことで学校の価値を更に高めることができると感じる。

Ⅲ まとめ

群馬ヤクルトでの研修を通し、学校現場では学べないこと、体験できないことを数多く経験することができた。今後も継続的にキャリア教育に関するワークショップ型の校内研修を行うことで、ビジョンの共有と教職員同士の対話の時間を意図的に設定していきたい。また、研修を行う中で、企業という地域素材を学校はもっと活用してもよいことを強く感じた。子供たちにはヤクルトのオンライン工場見学を通して、商品がどのように作られ、私たちの元に届いているのかを伝えるとともに、働く人のことを考える機会をもちたい。そして、教職員には、群馬ヤクルトの社員を校内研修の講師としてお招きし、私が受講したブロンズ研修の内容を知っていただくことで、企業の考え方や働き方の視点を持ち、チームとしての学校力向上を図りたい。

（担当指導主事 山中 英史）